

11.17 国鉄高崎動力車連帯労働組合を結成！

動労高崎の闘う仲間が決起

19日には、国鉄水戸動力車労働組合結成

すべての組合員の皆さん！

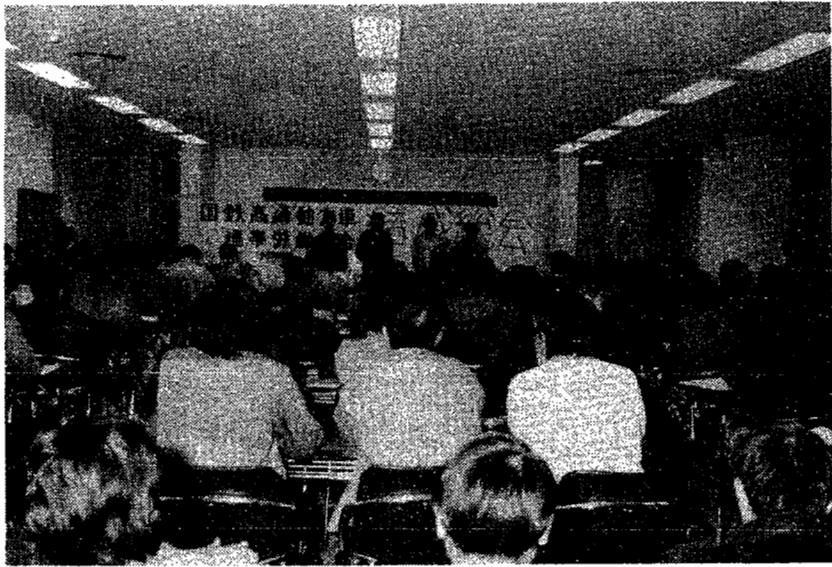
「分割・民営化」攻撃に屈服し、自民党・国鉄当局の先兵になり、労働者を裏切った動労「本部」に対し、動労のたたかいの歴史と栄光をとり戻し、引き継ぎ、労働組合としての再生の闘いをおしすすめんとする闘う労働者によって、十一月十七日、国鉄高崎動力車連帯労働組合、ついで十九日、国鉄水戸動力車労働組合が結成された。

われわれは、動労革マルの動労支配を打ち倒し、国鉄労働運動のなかに分割・民営化絶対反対派を形成すべき動労内より決起した仲間とともに、動労大改革をやりぬこうではないか。

動労の仲間へ、ともに決起
することを訴えている

十七日、国鉄当局に労働者の魂をも売り渡し、当局とベタつき、国労解体に血道をあげてきた動労高崎から敢然と決別し結成された国鉄高崎動力車連帯労働組合の「結成宣言」は全国のたたかう動労の仲間へともに決起することを訴えている。

「分割・民営」化—中曽根行革の最



又成功をかちった 結成大会 (11.17 熊谷市勤労会館)

最終的目標である戦争への道—新国家主義体制づくりに対する反対の声をあげる労働者・労組つぶしである。

ところが、こうした反動的攻撃に反対して闘うべき労組が当局と一体となり「分割・民営」化に率先協力し、当局の先兵になり労働者を裏切ってきた。「動労は新会社に指定席を確保した」「動労は雇用を確保した」とデマをふりまいている。しかし、動労高崎の一割が退職に追いこまれ、全国の動労職場で二ケタの自殺者をだしている怒りに耐えない現実がある。

動労の旗を下ろし、鉄労と
「新組合」—「鉄道労連」

デッチあげ

動労本部は、動労の旗を下ろし、鉄労とともに「新組合」—「全日本鉄道労働組合連合会（鉄道労連）」をデッチあげようとしている。

動労本部は、もはや労働組合ではない。ストライキをやるな、既得権を放棄せよ、骨身を削って働け、「三本柱」クリアーに全力あげよ、広域配転に応

(裏面へつづく)

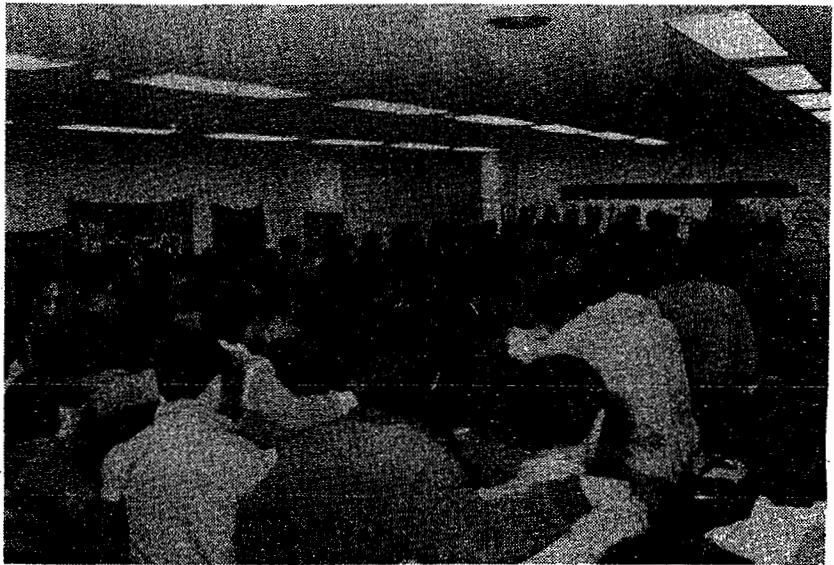
日刊 動労千葉

86. 11. 21

No. 2412

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電) 二九三五(六・公衆) 〇四七二(22) 七二〇七



じよ。そして動労が生き残るためならば国労がつぶされてもいい。自分たちの手で国労を解体しよう。

これが動労本部のやってきたすべてだ。政府・国鉄当局に対して奴隷に徹して国鉄労働者十万人首切りをかつてでている。これは労働組合でない。こんな連中にはもはや労働者の言葉は通用しない。

だからこそ、我々は動労のたたかいの歴史と栄光をとりもどし、引き継ぎ、労働組合としての再生のたたかいを宣言する。

「動労の変節は労働者としての魂のひとかけらも認めない

昨年七月「分割・民营」化答申以来の動労「本部」は急坂をころげ落ちるばかりの変節の中で、国労解体ばかりか、自衛隊・安保・日の丸も容認、労働者としての魂のひとかけらも認めない。この方針のもとで、ただただ「自分は生き残ろう」「国労の仲間やたたかう仲間をけおとしてでも自分は残ろう」とするならば、我々は生涯「裏切り者」だ。低賃金と労働強化の中で、なおかつ国鉄職場で働こうとしたのは、労働者としての誇りのゆえであった。この誇りをとりもどし、新組合の旗のもと、歯をくいしばって闘う。と新組合結成の決意を明らかにしている。

すべての組合員の皆さん。
われわれは、動労内より決起した高崎・水戸の仲間の断固たるこの決意に对应せずや動労革マル松崎を打倒し、動労大改革を実現しようではないか。そして、「分割・民营化」攻撃を粉碎しよう。

国鉄法案強行弾劾 分割・民营化絶対反対 11・30国鉄労働者全国交流集会

▼とき 11月30日(日)午後3時
▼ところ 東京お茶ノ水・日仏会館
▼主催 国鉄労働者全国交流会議
国鉄千葉動力車労働組合

(なお当日、「俺たちは鉄路に生きる」第二報の特別試写をおこないます)

